
恋って何ですか？

桜音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋って何ですか？

【Nコード】

N1280Q

【作者名】

桜音

【あらすじ】

恋をしたことがない歴十七年の絢。
今までは気にしなかった絢だけど、周りは恋バナで持ちきりでついていけない。
そんな絢は、友達の鈴那に相談してみる。

恋ってどういふのを言つの？

初投稿で、
あり得ないほどグダグダです！

（前書き）

素人の書いた駄文ですが、よろしく願いします。

「はー」

私は大きなため息をつく。すると、仲良しの鈴那が心配そうに顔をのぞかせ声をかけてくれる。

「どうしたの？ 絢」

「あ、鈴那…。別に大したことじゃないんだ…」

もう一度小さいため息をする。本当のことを言っていると聞いて欲しいからわざと大きなため息をしている。

私の狙い通り、鈴那は「私だったら相談に乗るよ」と言ってくれた。

「鈴那ってさ、好きな人いる？」

「いるのはいるけど。何で？」

「私さ、生まれて十七年、恋したことがないの」

今まではそんなこと気にも留めなかったけど、周りの子たちは恋バナで盛り上がっていて正直ついていけないのと、好きというのがよく分からないのだ。

そう言くと、鈴那はうーんと唸ってから質問する。

「本当に好きになった人いなかったの？」

「幼稚園のときに好きだった男友達ならいるよー」

「幼稚園って…いつ？ 年長さん？」

「年少さんのとき」

「それって物心つく前やんかい！」

全力でつつこまれた。

そう思ってノーカウントで恋したことがないって言ったのに。

「ていうかさ、友達と恋愛の好きの違いが分からないの。どう違うの？」

「ああー……、そっち系か」

どの系だと思ってたの？

「友情は、そのー…、気軽に話せて、…んー、そんな感じ」

「恋の方は？」

「その人と思うと胸がきゅーんってなるの！話するときドキドキして…切なくなるっていうのかな！」

「ごめん、よく分からない」

鈴那はええっ！と驚いてるみたいだけど分からないものは分からない。
い。

きゅーんって何だ？

鈴那は慌てふためきながら必死に言葉を探しているようだ。

あ、ひらめいたらしい。

動きが一瞬止まった。

「んじゃあ、好きな人となると緊張するの！これで分かるでしょ？」

「緊張か…何となく分かった」

鈴那は大変喜んでくれたようだ。どうして喜ぶのかは謎だけど。

「じゃあ、そろそろ帰ろうよ。課外に用事無いんでしょ？」

「ないと思うけど…」

記憶をたどっていくけど、用事は…

あった。

「数学のプリント、出しに行かないと！」

「えっ！水谷先生？今日四時すぎから出張行くって言ってたけど」

時計を見ると三時五十五分。ヤバくね？

「提出期限今日だし！厳守だし！急いで行ってくる！」

私は鞆を逆さにして中身を全部出す。すると、教科書の間から一枚のプリントがはみ出していた。

それをひっぱると、出さなきゃいけないプリントだった。

名前と、必要な項目が書いてあることを確認して急いで教室を出た。

「あー、ヤバいつて！てか何で職員室にいらなくて研究室なの？数学科が一番遠いのに！」

ブツブツ独り言を言いながら走る。人という障害物をせつせと避けて、全速力で走る。

交差点でスピードを緩めるべきだけどそんな余裕ない！

そのまま全速力で角を曲がる。

「きゃっ」「うわっ！」誰かと思いつきりぶつかる。

相手はプリントの束を持っていたようで、床に散らばった。

しかも、相手の顔を見ると見ない顔の男子で、上履きをみると青色だった。

私は赤だし、一年は緑だから三年生…つまり先輩…。

「すみませんっ！！」

私は慌てて床に散らばっているプリントを拾い集める。

ヤバイよ、どうしよう！！

「ごめんなさい！怒ってますよね？」

「あ、怒ってねえよ、気にすんな！」

「でも、本当ごめんなさい。交差点なのにスピード落とさなかったから…ってそもそも走るのがいけなかったんですけど」

申し訳ないのと恥ずかしいの感情が一気にこみ上げてくる。

「本当にすんな！それよりケガねえか？」

「あ、はい。それは大丈夫ですけど…」

プリントを集め終わり束を揃える。

顔を上げるとさわやかな顔をした先輩が目前にいた。

「ならいいんだ！」

ドキッ

何で私の心配するの？ぶつかったの私なのに…。

「あ、あの、プリント…」

話しかけるのも何かドキドキする。

「おっ、サンキューな」

そう言っただけ歯を見せて笑う彼。

「あつ、はい……」

どうしよう、心臓が破裂しそう。

何で？

男子だから？違う、普通の男子だったらこんなにドキドキしない。

先輩だから？違う、先輩にもドキドキするけど、それはただの緊張。
このドキドキはどこが違う。

『その人と思うと胸がきゅーんってなるの！話すときもドキドキして……切なくなるっていうのかな！』

鈴那の言葉を思い出す。

「顔、赤エーぞ？大丈夫か？」

そうか……

これが“恋”なんだ……

（後書き）

読んでくださった方、本当にありがとうございます！
意味わかんないですね…
グダグダですみません！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1280q/>

恋って何ですか？

2011年1月15日23時33分発行